

平成 20 年 9 月 5 日
福祉部高齢社会対策課

第 2 回練馬区高齢社会における敬老館のあり方検討会 議論のまとめ

1 利用対象者について

- 優先は60歳以上の方だが、空いている時間も多くあると聞いているので有効利用を考えてはどうか。敬老館なので、高齢者が優先であるが、なるべく広い世代に開放してもいい。
- 敬老館なので、高齢者が優先でいいと思う。その他の世代の方は、地区区民館等利用できる施設があるので、敬老館はある程度年齢制限等があってもいいと思う。
- 利用者の年齢だが、60歳からがいいと思う。若い方が入ったら、という意見もあるが、やはり敬老館は、高齢者を対象にした施設であった方がよいと思う。
- 介護認定を受けている状況にあっても、ヘルパーや家族が少し雰囲気を変えるために訪ねてくる場合もあるかもしれないので、人に迷惑をかけるような使い方をしないということでもいいと思う。
- 要介護認定の有無で、敬老館の利用を区切ってしまうことはできないのではないかなと感じた。
- 現在、区は、認知症になる前の予防について力を入れているので、介護保険を使うほどではない方や要介護の程度が軽い方が使える敬老館があってもいいと思う。
- 認知症の方が来た時に、どのように、今度、次の使える施設に、どのように紹介していくか、その方にとって一番居心地のいい場所はどこなのか。その方を排除するだけでは、やはり困るのだろうと思う。
- 区内在住を有する満60歳以上の人でよいか、については引き上げていいと思う。60歳の方から考えてしまうと、今の敬老館の受け入れ数等を考えると厳しいと思う。現実的に60歳の現役に近い方には、もっと違う施設、あるいは違う方法の支援があってもいいのかなという思いがある。

2 利用方法について

- 必ず利用者証を出していただき、緊急の時の連絡先というのは、どんな時でも必要だと思う。すぐ家族の方や近所の方等連絡先が必要であるので、この利用証というのは絶対必要である。
- 1人の方が、複数の館を利用していることが結構多い。館ごとのカードを持っているので、こういったシステムが、例えば、1枚の利用証で、区内の全ての敬老館や高齢者センターで利用できる方法にならないかという思いはある。
- 介護保険制度の要介護状況であるとか、欲を言えば、そのような情報も、可能であれば必要である。ただ、これは個人情報との関係があるので、もう少し議論が必要なのかなと思う。

- 例外をどこまで認めるかということもあるかもしれないが、ルールづくりはしなければならないと思う。

3 団体利用について

- 10人や20人の大人数の団体だと、確かに1週間に1日の午前中しか使えないことは理解できるが、サークル単位だと、また違う形の使い方で、他の曜日でも集うことができるのかなと思う。
- きっとスタート時と今では、団体や、高齢者の集いが、少し形が変わってきたと思うので、もっと有効に利用できる、緩やかなサークルの利用というのがあれば皆さん楽しいかなと思う。
- 高齢者の団体活動を推進し、推奨していくということは当然のことであるので、その考え方は必要である。ただし、それが敬老館に全て当てはまるのかというと、これは難しい。特に個人利用者が制約されてしまうからである。
- 団体利用の状況として、10人以上の構成、この妥当性については、議論は必要なのかなとは思う。
- 敬老館のシステムの中で、団体活動を利用する日が設けられるとしたら、個人利用とのバランスを考えると木曜日の午前9時からが限界なのかなと思う。
- 個人利用を中心とした事業運営を考えた方が、敬老館としてはふさわしいと思う。

4 開館時間・休館日について

- 開館時間は、現状の9時から5時でよい。
- 夏時間と冬時間で1時間ずつ、ずらせればよいと思う。
- 休館日については、振替休日で月曜日の休みが多いため、会えないのは淋しいという方がいる。祝日ぐらいは開館出来ないかという意見がある。

5 夜間利用について

- 夜間利用は、個人で利用することは、今の話のように暗くなってしまったら、1人で帰るのは非常に難しい。
- 団体利用を夜間に持っていたら、年齢も関係なく、若いサークル等、利用したらどうかと思う。
- 私ども会場の面で、今の活動の中では非常に困っており、敬老館を使えるのは、今、初めて知ったのが、そういった意味で夜、使えるというのは、非常にいいかと思う。

6 主な施設について

【風呂について】

- 「自分はひとり暮らしで、夜、お風呂に入っていると、本当に不安だから、敬老館のお風呂があつてありがたい」と言っている。
- 幸いにして敬老館は男女別々の風呂があり、非常に楽しみに入っているようで、ぜひ継続をお願いしたい。
- 民業圧迫という問題もあり、風呂の利用時間の幅を広げられるかは、これは相当難しい。
- 他区の状況を見ると、風呂を中止しているところも随分増えてきている。それ以外の高齢者サービスに特化していくという形だと思うが、風呂の入浴サービスについての議論は、もう少し深めていいように思う。

【娯楽室等について】

- 誕生会で100人近く利用することもある。舞台付きの娯楽室、大部屋は必要であると思う。
- 高齢になると、ひざが痛くて、畳では座ってられないという方を何名か耳にしたので、果たして全部畳でよろしいか。椅子の方がいいのかなと思う。

【囲碁・将棋・カラオケについて】

- 囲碁、将棋、カラオケについては、毎回、同じ顔ぶれで遊んでいる。相手の手の内が分かっちゃまっているので、面白みがなくなっている。これを何とか面白く持っていく方法を考え出してほしいということだが、利用者の意見を聞いたところ、指導してくれる先生が欲しいという。同じ仲間同士、同じ手の内がわかった同士で、毎日遊んでいても、次の手がわかってしまっている。そうではなくて、先生を呼んでいただき一歩前進したい。

【マッサージ機、電位治療器について】

- マッサージ機、電位治療器の健康機器も、年をとり、ひざが痛い、腰が痛い方が、電位治療器が非常にいいということで、これも順番待ちで、なかなか空かない時間帯がある。これも非常に高い人気を得ている。

【その他】

- 駐車場が有料化されたことで、自動車を利用していただいていた人たちが来なくなった。
- 高齢者には、今、インターネットやパソコンに対して非常に興味を持たれている方が多い。これからの時代はパソコン、インターネットもカラオケと同じようになるのではないかと思う。
- 高齢者の生活様式が、この20年間に随分変わってきた。和式から洋式にライフスタイルが変わってきている流れの中では、そういった中で考えなければいけない。

- 娯楽室にしても、休養室にしても、館によって1部屋で全部補っているところと、この中村敬老館のように、全部が別々にあるというところがあり、では全館に当てはめるのかというと、なかなか難しいという思いもある。
- 動の活動と静の活動、つまり運動系の活動とか、囲碁・将棋とか静かな活動と、敬老館の中では共有している。うまくやっているところもあれば、それが原因で、いろいろなトラブルを起こしているところもある。その辺の、静と動の活動をどうすみ分けていくのかは、もう少し議論を深めていく方がいいと思う。
- 敬老館のスペースの中で提供できる、活動できる範囲は、どういうものなのか。あるいは、きちんとすみ分けた方がいいのか。その中で平和にやっていけるルールは何なのかとか、そういったところは考える必要があると思う。